

凡例

- 一、 この「十九世紀熊本藩住民評価・褒賞記録『町在』解析目録」データベースは、先に冊子体として刊行した同名の「解析目録」に収載している「件名表題」「事項」「地名」「人名」に、「件名内の構成」「件名主内容」を加えたものである。

データベース1件あたりの構成を順に示せば、

「件名表題」「件名内の構成」「件名主内容」「事項」「地名」「人名」となる。

- 一、「件名表題」は文書の概要を示し、手永名・村名・役職・身分（役席）等を明記した。また、「件名表題」で同じ意味のものについて表記が複数ある場合、「事項」では以下の例のように表記を統合した。

例) 「件名表題」		「事項」
二御丸普請寸志	}	⇒ 二御丸御修復御手伝御用寸志 など
二御丸御手伝寸志		
二御丸普請御手伝寸志		

- 一、「件名内の構成」は文書の構成を示し、出来るだけ原文書の並びに合わせた。件数の多いものについては、主なものを記述し、他〇点とした。なお、原文書にない年月日等については（ ）をつけた。

- 一、「件名主内容」は、「件名表題」で表記出来なかった詳しい内容（理由・経緯・結果等）を示した。

- 一、「事項」は、件名の主内容を構成する基本的な用語を抽出・配列した。配列に際しては、概ね申請対象者、申請理由・内容、申請の結果の順となるようにした。

- 一、「地名」は現在の地名表記とし、郡・手永・村町の順に配列した。（「郡・手永一覧」参照）

- 一、「人名」は、出来るだけ原文書に即した表記とした。

但し、辺・邊・邊⇒辺、 斉・齋・齋・齊⇒斉・齋、 富・富⇒富 に統一した。

また、画面上に表示出来ない文字については、下記の例のように記述した。

例) 烜⇒タツ（火扁に旦）、 璿⇒〇（ヨミ不明、王扁に善）など

- 一、原文書に用いられている古体・異体・略体等の文字は、原則として活字体に改めた。また、同義のものは一つの語句に統一した。

例) 倅・倅・倅・倅⇒倅、 大夫・太夫⇒大夫
鉄炮・鉄砲 ⇒鉄炮、 榜示・傍示⇒榜示 など

- 一、画面上に表示出来ない文字の一部については、以下のように置き換えて表記した。

ふ⇒より、 扨⇒締、 蠟⇒蠟、 慶⇒慶
萇⇒倅、 焰⇒塩、 焯⇒硝、 雫⇒雨乞
鞞⇒ユガケ、 榭梓⇒オツボツ

【 郡・手永一覽 】

郡名	手永名
飽田	五町 池田 横手 錢塘
託麻	本庄 田迎
上益城	鯨 沼山津 甲佐 木倉 矢部
下益城	杉島 廻江 河江 砥用 中山
宇土	松山 郡浦
八代	野津 高田 種山
芦北	田浦 佐敷 湯浦 津奈木 水俣 久木野

郡名	手永名
山本	正院
玉名	小田 内田 坂下 中富 荒尾 南関
山鹿	山鹿 中村
菊池	深川 河原
合志	竹迫 大津
阿蘇	布田 高森 菅尾 野尻 内牧 坂梨 北里
直入	久住
大分	野津原 谷村 高田
海部	関